感性に基づいた人間の食事傾向に関する検討

○神田太樹（西武文理大学）

Studies on human meal tendency based upon Kansei

Taki Kanda(Bunri University of Hospitality)

1. はじめに

私たちが毎日とる食事の傾向は、世帯や個人により異なる。そこで、世帯や個人の食事傾向を検討するため、3世帯の1年間の食卓データについて、各メニューの感性に基づいた食感覚の評価をアンケートにより行い、これより、世帯間の食事傾向を比較する。人間の食品に対する食感覚として、簡便感覚、健康感覚、本格感覚について考え、実際の食卓データと食感覚についてのアンケート・データから、各世帯の簡便志向、健康志向、本格志向の度合いを定量化して、これを簡便志向食事得点、健康志向食事得点、本格志向食事得点とする。本報告では、1年間の食卓データのある3世帯について、これらの食事得点を計算して、3世帯間の食事傾向を比較し、ここで定義した食事得点を世帯や個人の食事傾向を評価するのに用いることを提案する。

2. 人間の食感覚と心理的摂動

ここでは、人間の食品に対する感覚として簡便感覚、健康感覚、本格感覚について考え、個々のメニューに対し人間の平均的な感じ方として、アンケート・データを基にメニュー簡便志向得点、メニュー健康志向得点、メニュー本格志向得点を定義する。その際、一つ志向に対する回答は、他の志向に2次的は心理的影響を与えるものと考え、これを心理的摂動として考慮した。

3. 食感覚の定量化

アンケートは、20人の短期大学在学の学生を被験者に、一つ一つのメニューについて、簡便志向、健康志向、本格志向に関する質問をし、それぞれの志向に対し、「そう思う」、「多少そう思う」、「どちらとも言えない」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の中から一つを回答として選択してもらうという方法で行った。そして、1つのメニューの1被験者の回答に対し、それぞれの志向について、準サンプル志向得点と他の志向への2次的な心理的影響として摂動サンプル志向得点を表1のように設定し、サンプル簡便志向得点、サンプル健康志向得点、および、サンプル本格志向得点をそれぞれ次のように定義した。

表1 志向得点の設定

準 サンプル 志向得点	回答	摂動 サンプル 志向得点
8 0	そう思う	- 1 0
6 5	多少そう思う	- 5
5 0	どちらとも いえない	0
3 5	あまり そう思わない	5
2 0	そう思わない	1 0

サンプル簡便志向得点

= 準サンプル簡便志向得点
+ 摂動サンプル健康志向得点
+ 摂動サンプル本格志向得点

サンプル健康志向得点

= 準サンプル健康志向得点
+ 摂動サンプル簡便志向得点
+ 摂動サンプル本格志向得点

サンプル本格志向得点

= 準サンプル本格志向得点
+ 摂動サンプル簡便志向得点
+ 摂動サンプル健康志向得点

各サンプル志向得点は、1被験者に対し、簡便志向、健康志向、健康志向の回答の組合わせにより、125通りの回答があり、0から100までの値をとる。さらに、個々のメニューの人間の平均的な食感覚を表すメニュー簡便志向得点、メニュー健康志向得点、および、メニュー本格志向得点は、それぞれ、全被験者のサンプル簡便志向得点、サンプル健康志向得点、および、サンプル本格志向得点の平均として求める。

4. 各志向の食事得点

アンケート結果から得る個々のメニューのメニュー志向得点と実際の食卓データから、特定の世帯なり個人の全体的な食事傾向を表す各志向の食事得点を次のように定義する。いま、全メニュー数を T 、メニュー m ($m=1,2,\dots,T$) のメニュー簡便志向得点、メニュー健康志向得点、および、メニュー本格志向得点をそれぞれ $S_c(m)$, $S_h(m)$, $S_e(m)$ 、メニュー m をとった回数を $N(m)$ として、簡便志向食事得点 S_c 、健康志向食事得点 S_h 、および、

本格志向食事得点 S_e をそれぞれ

$$S_c = \frac{\sum_{m=1}^T S_c(m)N(m)}{\sum_{m=1}^T N(m)},$$

$$S_h = \frac{\sum_{m=1}^T S_h(m)N(m)}{\sum_{m=1}^T N(m)},$$

$$S_e = \frac{\sum_{m=1}^T S_e(m)N(m)}{\sum_{m=1}^T N(m)}$$

と定義する。表2に、本報告で用いた3世帯（世帯A、世帯B、世帯C）の1年間の食卓データに対する3志向の食事得点を示す。

表2 食事得点

世帯	簡便志向	健康志向	本格志向
A	60	59	37
B	62	57	37
C	66	56	31

5. まとめ

本論では、人間の平均的な食感覚をアンケートにより評価し、これと実際の食卓データから、世帯や個人の食事傾向を示す食事得点を定義した。この食事得点を実用的に食事傾向の比較に用いるには、得点の統計解析を行うなど、さらに検討が必要である。

謝辞

本研究には、食卓データとして、株式会社NTTデータの食MAPTMを利用させて頂きました。ここに、感謝申し上げます。